

中学校教員による校区の小学校の教科担任制の実施

に向けた工夫

〔伊達市〕大滝徳舜警学校の取組

○ ポイント

- ① 全学年で日課を統一
- ② 学習規律と学習指導を統一
- ③ 中学校教員による段階的な教科担任制の導入

- ・ 学校名（児童生徒数）
伊達市立大滝徳舜警学校
- 前期課程（13人）
- 後期課程（19人）
- ・ 導入状況（導入時期）
義務教育学校（平成31年4月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（6-3）



学校ホームページ



学校フェイスブック

工夫の実際

① 全学年で日課を統一

- ・ 後期課程教職員の教科担任制が円滑に行えるよう、前期課程の一単位時間を50分間とし、全学年で日課を統一した。
- ・ 全校児童生徒の健康や心理状態など、配慮事項等を全教職員が共通理解するため、打合せ時間を毎日設定した。

② 教科担任制の目的を共通理解

- ・ 小学校の教員と中学校の教員に指導の差が生まれないよう、教科担任制の目的や意義を確認し、学習規律や学習指導の共通化を図った。
- ・ 児童生徒や教員が学習規律を徹底できるよう、持ち物や授業の受け方などの学習規律に関する9年間の系統表を作成して教室掲示した。
- ・ 学習指導に関する教員の共通理解に向け、授業の流れや学習課題の提示方法、板書する際に使用するチョークの色やマグネットの使い方などについて9年間の共通のルールを設定した。

③ 中学校教員による段階的な教科担任制の導入

- ・ 後期課程の接続に向け、教科担任制を段階的に導入できるよう、学年が上がるにつれて関わりをもつ教員が増える指導体制を組んだ。
- ・ 専門的な指導の充実に向け、学習環境を整備できるよう、可能な限り教科教室制とした。

	時間	A日課	
		6時間授業	5時間授業
登校		~	8:05
朝読書／朝学習	15	8:05 ~	8:20
朝の会	10	8:20 ~	8:30
第1校時	50	8:30 ~	9:20
準備	10	9:20 ~	9:30
第2校時	50	9:30 ~	10:20
中休み	10	10:20 ~	10:30
準備	5	10:30 ~	10:35
第3校時	50	10:35 ~	11:25
準備	10	11:25 ~	11:35
第4校時	50	11:35 ~	12:25
給食	35	12:25 ~	13:00
後片付けと備みがき	5	13:00 ~	13:05
昼休み	15	13:05 ~	13:20
清掃活動	15	13:20 ~	13:35
準備	5	13:35 ~	13:40
第5校時	50	13:40 ~	14:30
準備	10	14:30 ~ 14:40	
第6校時	50	14:40 ~ 15:30	
帰りの会	10	15:30 ~ 15:40	14:30 ~ 14:40
放課後	10		
下校バス時刻		15:50	14:50
		17:30	

【全学年50分授業の日課表】

- (1) 教師の専門性を生かし、教材研究の質を高めることで学ぶ楽しさを実感し、学習の基礎・基本をしっかりと身に付けることができる。
- (2) 多くの教員が指導に関わることで、多面的な児童生徒理解と児童生徒一人一人の個性や能力の伸長につなげることができる。

【前期課程における教科担任制の目的】

教科	学年	1	2	3	4	5	6
国語							
社会							
算数							
理科							
外国語							
音楽							
図工							
家庭							

【中学校教員による教科担任制導入状況（令和元年度）】

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 段階的な教科担任制を導入したことにより、専門的な指導が充実し、児童一人一人の興味・関心を促し、学びを深めるなど、学力の向上につなげることができた。
- ・ 複数の指導者が関わることにより、児童を多面的に捉え、よさを伸ばすことができた。

○ 今後の取組

- ・ 児童生徒の実態や各教科の系統性を踏まえて育成すべき資質・能力の重点を明確にし、教科等横断的な視点から教育課程や9年間の指導計画を改善する。

中学校教員による校区の小学校の教科担任制の実施

に向けた工夫

〔江差町〕江差北中学校区の実施

○ ポイント

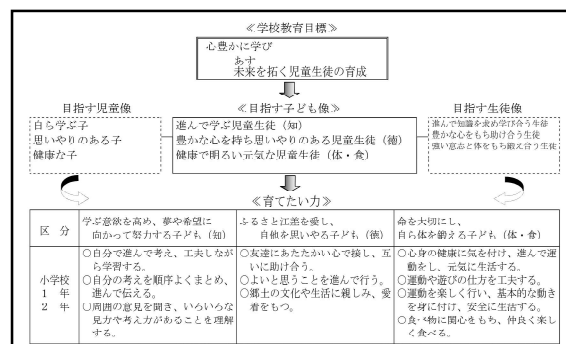
- ① 9年間を見通した教育課程の編成・実施
- ② 中学校教員による小学校の教科担任制の段階的な導入
- ③ 小学校と中学校が連携した教育活動の充実

- ・学校名（児童生徒数）
江差町立江差北小学校（58人）
江差町立江差北中学校（44人）
- ・導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（平成31年4月）
- ・施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（6－3）

工夫の実例

① 9年間を見通した教育課程の編成・実施

- ・教科等の指導計画の作成に向け、「9年間で育てたい力」を明確にした。
- ・各教科等の系統性や関連性を踏まえた指導を充実するため、作成した各教科等の系統表に基づいて教育課程を編成・実施した。



【「9年間で育てたい力」の一部】

② 中学校教員による小学校の教科担任制の段階的な導入

- ・中学校教員が小学校で教科担任制を実施する際の成果と課題等を明らかにするために、小学校の国語科、算数科、理科、体育科、外国語活動、外国語科、中学校の数学科で相互乗り入れ指導を実施した。
- ・乗り入れ指導の成果と課題を踏まえ、指導に専門的なスキルが求められる小学校の理科、外国語活動、外国語科において教科担任制を実施した。

内容		エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存
小学校	第3学年	風と音の振動 ・風の力の働き ・音の力の働き	磁石の性質 ・磁石に引きつけられる物 ・異極と同極
	第4学年	光と音の性質 ・光の反射・屈折 ・光の当て方など ・明るさの強さを 表す単位と大きさ	電気の通り道 ・電気を通すつなぎ方 ・電気を通す物
	第5学年	振り子の運動 ・振り子の運動	電流の働き ・乾電池の極とつなぎ方
	第6学年	てこの規則性 ・てこのつり合いの規則性 ・てこの利用	電流が流れる磁場 ・磁心の磁化、磁の蓄化 ・電磁石の働き
中学校	第7学年	力の働き ・力の働き（力のつり合いを食む）	電気の利用 ・発電（発電機を食む）、蓄電 ・電気の伝達 ・電気の利用
	第8学年	光と音 ・光の反射・屈折（光の色を食む） ・光の屈折の働き ・音の性質	

【理科の「系統表」の一部】

③ 小学校と中学校が連携した教育活動の充実

- ・小・中学校の教員が、児童生徒の姿を中心に据えて連携することができるよう、異学年による小中合同授業や、生徒指導交流会など、全教職員で児童生徒に関わる取組を行った。

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・9年間で育てたい力を明確にし、教科等の指導計画及び系統表を作成することにより、小学校における教科担任制の段階的な導入につなげることができた。
- ・児童生徒アンケートの「相互乗り入れ指導の実施によって、授業が分かるようになったか」の質問における肯定的な回答が、小学校においては外国語活動で83%、理科で92%、体育科で100%、中学校においては数学科で100%となった。
- ・小中連携の取組を進める中で、全教職員で児童生徒に関わったことにより、児童生徒理解が深まり、指導の充実につながった。

○ 今後の取組

- ・各種調査等や児童生徒アンケートの結果に基づき、相互乗り入れ指導及び小学校における教科担任制の実施の効果を検証し、改善する。

中学校教員による校区の小学校の教科担任制の実施

に向けた工夫

〔比布町〕比布中学校区の取組

○ ポイント

- ① 中学校教員と小学生の交流を目的とした乗り入れ指導の実施
- ② 年間を見通した相互乗り入れ指導及び教科担任制の実施
- ③ 参画意識の向上に向けた全教職員への兼務発令

・ 学校名（児童生徒数）

比布町立中央小学校（146人）

比布町立比布中学校（83人）

・ 導入状況（導入時期）

小中一貫型小・中学校（平成31年4月から）

・ 施設形態（学年段階の区切り）

施設隣接型（6－3）

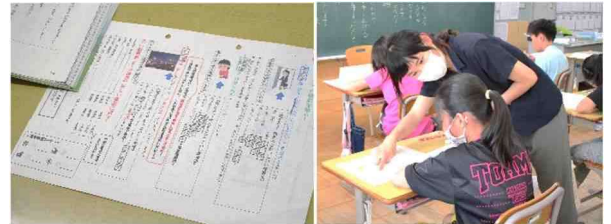


比布町

工夫の実例

① 中学校教員と小学生の交流を目的とした乗り入れ指導の実施

- ・ 中学校生活や教科担任制に対する児童の不安を解消し、中1ギャップ問題を未然防止できるよう、中学校教員が小学校の国語科、社会科、図画工作科、体育科などで乗り入れ指導を行った。



【第5学年国語科「敬語」の授業より】

② 年間を見通した相互乗り入れ指導及び教科担任制の実施

- ・ 算数科と数学科の相互乗り入れ指導や外国語科の教科担任制を計画的に行うために、小・中学校の時間割担当者による連絡調整や実施する曜日の固定化など行った。
- ・ 計画的な指導の充実に向け、連携を重点的に行う単元の共通理解を図り、指導計画の改善を行った。
- ・ 指導力の向上や系統性を生かした指導の充実に向け、小学校教員と中学校教員が一緒に授業研究を行った。



【算数科における乗り入れ授業～2校時に固定化】

③ 参画意識の向上に向けた全教職員への兼務発令

- ・ 全教職員で小中一貫教育に取り組む意識を高めることや乗り入れ先での指導に責任をもつこと、取組への負担感を軽減することなどをねらいとして、全教職員に兼務発令した。



【第6学年外国語科における教科担任制】

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 中学校教員の専門性を生かした小学校における教科担任制の実施により、児童の学力や英語力の向上を図ることができた。
- ・ 計画的な相互乗り入れ指導により、中学校教員と小学校教員による授業改善に係る日常的な交流が生まれ、授業改善を推進することができた。

○ 今後の取組

- ・ 義務教育学校への移行等を見据え、小中一貫教育を更に円滑に推進できるよう、教科担任制等の取組を工夫・改善する。

中学校教員による校区の小学校の教科担任制の実施

に向けた工夫

〔幕別町〕 札内東学園の取組

○ ポイント

- ① 教科担任制の実施に向けた目的の共有
- ② 中学校の授業との接続を意識した系統表の作成
- ③ 小・中学校間における外国語科の学習評価の共通理解

- ・ 学校名（児童生徒数）
幕別町立白人小学校（204 人）
幕別町立札内北小学校（251 人）
幕別町立札内東中学校（237 人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（平成 29 年 4 月）
- ・ 施設形態 施設分離型（6－3）

工夫の実際

① 教科担任制の実施に向けた目的の共有

- ・ 教科担任制の目的の一つを小学校教員の指導力向上とし、教科担任の中学校教員に指導を一任せず、協働を意識できるよう、複数の教員で児童の学習状況を見取って授業の検証・改善する体制を整えた。
- ・ 外国語科の 5 領域の指導の重点の共有や外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる授業の構築に向け、中学校教員が高学年の T 2 として小学校教員の授業を補助した。



【視覚的教材を用いた札内北小学校での学習】

② 中学校の授業との接続を意識した系統表の作成

- ・ 小学校と中学校の指導のギャップをなくすために、児童生徒に身に付ける資質・能力を明確にした小学校第 3 学年から中学校第 3 学年までの系統表を作成した。
- ・ 中学校のオールイングリッシュの授業に向け、積極的に英語を使う雰囲気を醸成するために、クラスルーム・イングリッシュを発達の段階に応じて取り入れた。
- ・ 進学後の不安軽減に向け、英単語を抵抗感なく読むことができるようにするために、小学校高学年から発音と綴（つづ）りを関連付けた指導を取り入れた。



【小学校教科担任制における T T の様子】

③ 小・中学校間における外国語科の学習評価の共通理解

- ・ 取組の成果を児童生徒の姿で検証できるよう、小・中学校の教員が、授業での実践を通して単元の評価規準及び評価場面の位置付けや、スピーチ等によるパフォーマンステストの評価の視点などについて共通理解を図った。



【ICTを効果的に活用した白人小学校での学習】

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 外国語の教科化に向け、中学校教員と交流を通じて年間指導計画を改善することにより、小学校教員の授業力向上につなげることができた。
- ・ 中学校へのスムーズな接続に向け、教科担任制を実施することにより、進学後の不安を軽減できた。

○ 今後の取組

- ・ 学園として目指す子ども像の具現化に向け、7 年間を見通した外国語の指導計画の見直しを行うとともに、他の教科も継続的に年間指導計画の見直しを図る。